

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者

し入江、千賀

2. 山行スタイル

雪山登山

3. 目的

リハビリ登山

4. 山域／ルート

北アルプス 焼岳（標高 2,455m）

5. 交通手段

車

6. 行動記録

<入山日 2023年3月11日 下山日 2023年3月11日>

10:20 中ノ湯温泉旅館(標高 1500m)→13:15 下堀沢出合→15:00 山頂 15:30→16:00

下堀沢出合→17:25 中ノ湯温泉旅館

7. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

予定ルートはずれた場合、あるいは日程が異なった場合はその理由
神戸出発が遅くなったため、山行開始、終了も4時間ほど予定より遅くなった。

b) 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか？

発生した場合、具体的に記す
特になし。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

特になし。

8. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

中ノ湯温泉旅館の駐車場に停める場合は事前予約が必要。またこの旅館へ通じる道にはゲートがあり、朝6時以降からしか通ることができない。

9. 感想

2度目の焼岳。

前回は大寒波襲来のクリスマスに行きマイナス15度でテント泊、ホワイトアウトと強風で山頂直下で登頂断念。今回は急遽であったが、天候が良いので行ってみることにした。

神戸を発ったのが夜中になってしまい、仮眠場所の平湯に5時前到着。それから仮眠し、ちょっとしたトラブルもあり、登山スタートが予定より大幅に遅れてしまった。半年以上、山登りから遠ざかっていたこともあり、山頂までは無理かなーと思いつつ、今シーズン初めての雪山登山を開始する。諸事情により荷物はかなりせんくんに持ってもらった。抜けるような青空のなか進む。トレースバッチリでつぼ足で進んで行くと、時々外して腰まで埋まったりしながらも、順調にすすむ。無風で気温も高く汗がたらたら、早々に上着やオーバーパンツを脱ぐ。せんくんは半袖で夏山登山状態。下堀沢出合から急登となるが、冬期にしか行くことのできない南峰を目指し、つぼ足で順調に進む。



霞沢岳をバックに急斜面を登る

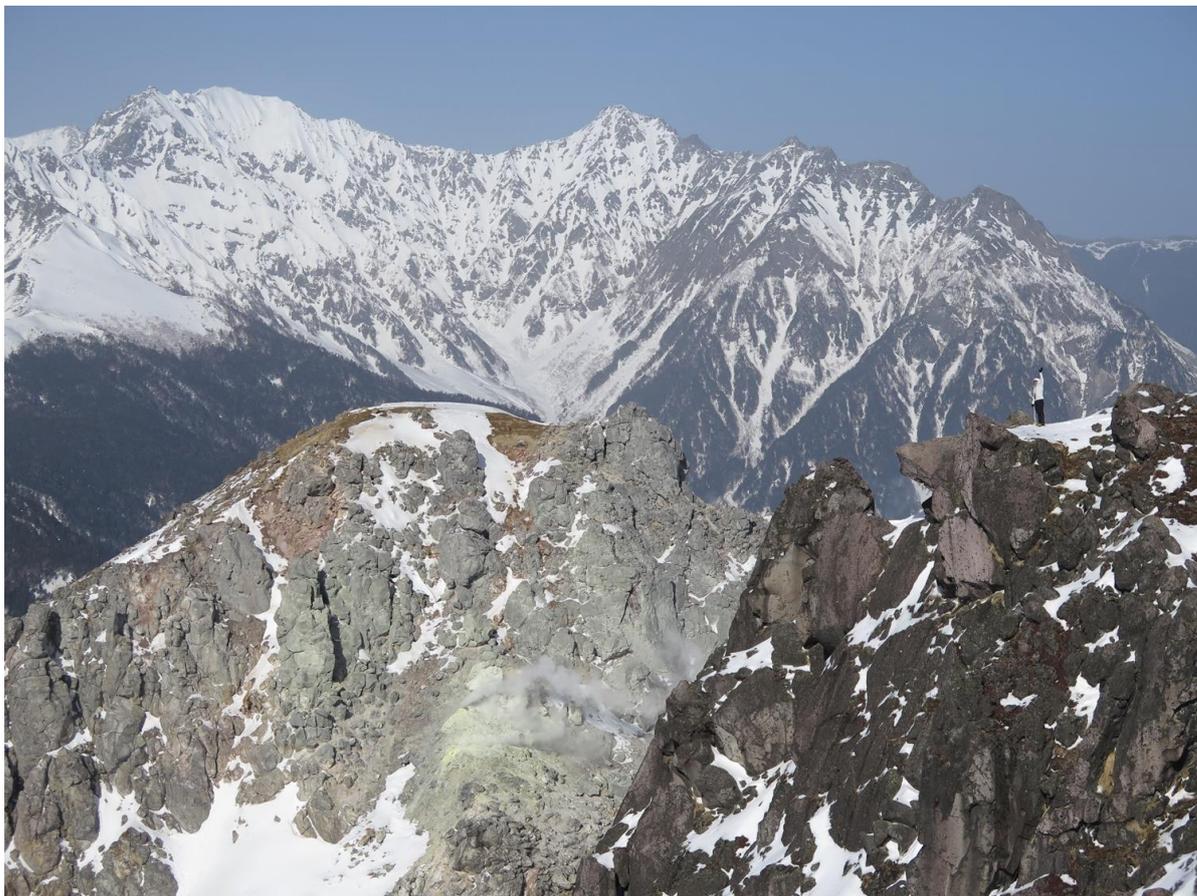
北峰を見るとバックカントリーチームが登っている。そして自分たちの登っている南峰直下にも、これから滑走しようとしているバックカントリーチームがいた。今後の参考に見学させてもらったが、かなりの急斜面。ボーダーさんが大転倒し、ボードを突き刺さしながら5~6回前転していた。おそろしい。

山頂まであと少し、最後までつぼ足で行けてしまうのかなと思っていたが、さすがに見学していた場所からすぐ上は、クラストした箇所がでてきたし、山頂直下は岩峰もあるのでアイゼンを装着して進んだ。



山頂直下(南峰)の岩稜

予定よりかなり遅くなってしまったが、無事にだれもいない山頂に到着。目の前には奥穂に前穂、遠くに槍ヶ岳も望め素晴らしい展望。ほぼ無風で気温も高いため、ごつごつとした溶岩ドームからゴーっと大きな音をたてて噴煙を上げている北峰まで近づいてみた。火口の外輪なので徐々に幅が狭くなり、ところどころスリリングな箇所を岩をつかみながら移動。先端まで行きたかったが、さすがに確保が必要なので無理だったが、前回はホワイトアウトで全く見ることもできなかった山頂にこれで良かった。



前穂や奥穂をバックに噴煙の上がる焼岳北峰に近づく

下山は早い。山頂から下堀沢出合までの急斜面をポールからピッケルに変えて 30 分程で下り、その後は安全地帯の樹林帯。時々トレースを外してしまい、ズボッと埋まってはバランスを崩して転倒（明らかに筋力が低下している、、）しながらも、明るい内に下山できた。負傷している肩の様子見もあったが、なんとかなったので良かった。

夜は飛騨高山で飛騨牛を堪能し、翌日は鷲ヶ岳スキー場にて途中から雨が降る中、頑張ってゲレンデトレをしたあと、神戸へと戻った。

報告者氏名 入江

2023 年 3 月 16 日